

## ■「効果の見える治水事業」

### 香川県 別当川総合開発事業（内海ダム再開発）

香川県土木部河川砂防課長 阿部 孝雄



別当川は、小豆島の東南部香川県小豆郡小豆島町に位置し、その源を名勝寒霞溪（神懸山：標高671m）に発し、山間部を南流し、途中小豆島町神懸通、草壁本町を貫流して、小豆郡小豆島町草壁本町地先で内海湾に注ぐ流域面積8.8km<sup>2</sup>、流路延長4.0kmの二級河川です。

別当川流域は急流のため古くからたびたび被害を受けており、香川県では、地元小豆島町（旧内海町）が水道専用ダムとして昭和31年に完成させた内海ダムを、昭和34年に治水機能も併せ持つ多目的ダムとして改築しました。



位置図

内海ダム再開発  
（香川県小豆島町）

### 既設内海ダム



このダムは、集水面積に比べ洪水調節容量が非常に小さく、また、洪水調節方式として一定量放流方式を採用しているため、操作が非常に難しくなっています。昭和49年の台風8号による豪雨では、浸水家屋538戸、浸水農地71.3ha、昭和51年の台風17号による豪雨では、5ヶ所で氾濫し、浸水家屋732戸（全半壊含む）、浸水農地48.4haおよび河岸の決壊などの被害が発生しました。また、ダムの構造がコンクリートと土石の混成堤であり、非常用洪水吐きが設置されておらず、昭和36年の台風17号では、内海ダムの天端から水があふれ、ダムの下流側の斜面が崩壊する被害に遭いました。昭和49年の台風8号でもダム天端越流の危険性があったことから、地元住民からは抜本的な治水対策が強く望まれてきました。

一方、別当川は川沿いの耕地などに対するかんがい用水や小豆島町の水道水源として広く利用されていますが、小豆島町（旧内海町）では昭和60年、61年、平成3年、6年、7年、8年などしばしば深刻な水不足に見舞われています。平成9年の吉田ダム完成により水事情は改善されたものの、平成12年8月17日から85日間、平成14年12月2日から150日間、平成19年5月28日から49日間、渇水対策本部を設置し、節水に努めました。このような状況に加え、小豆島町では、合併に伴って予定されている簡易水道の上水道への統合計画や、現在かんがい期には取水できないため池や水質悪化により水道水源として不適格な表流水に依存している現状を踏まえ、安定水源の確保に努めています。

このように治水はもとより、利水においても早急な対策が望まれており、内海ダム再開発事業には大きな期待が寄せられています。

また、本事業では「周辺地域の豊かな自然資源と調和のとれた、よりよい景観形成を図る」ため、有識者や地元の代表の方々から構成される「内海ダム景観検討委員会」を設置し、これまで9回にわたる審議を経て、景観や環境に配慮した整備を実施しています。

現地の施工については、平成18年度から工事着手した付替道路は、平成23年9月に全 구간が供用開始されました。また、平成21年度から着手したダム本体工事も昨年9月にコンクリート打設が完了するなど順調に工事を進めることができ、12月21日からは、試験湛水を開始しています。

今後とも地元の方々のご理解・ご協力を得ながら地元小豆島町と共に、残る周辺環境整備等に鋭意取り組みまして、平成25年度の事業完成を目指してまいります。



堤体天端部施工中



完成予想写真

## 談話室（香川県小豆郡小豆島町）

小豆島町長 塩田 幸雄



小豆島町は、瀬戸内海国立公園に浮かぶ小豆島の中央から東に位置し、海と山の美しい自然に恵まれた町です。壺井栄の小説「二十四の瞳」の舞台として、また、日本におけるオリーブ栽培発祥の地として、全国的に知られています。

小豆島町とオリーブの関わりは、明治41年、当時の農商務省が三重、香川（小豆島）、鹿児島 の3県を指定して、アメリカから輸入した苗木で試験栽培を行い、小豆島町に植えたオリーブだけが順調に成育し、大正初めには搾油ができるまでになりました。オリーブが健康によいことは医学的にもよく知られており、小豆島町ではオリーブによる健康長寿の島づくりに取り組んでいます。

また、「二十四の瞳」の映画撮影時のセットを保存した「二十四の瞳映画村」があり、多くの観光客で賑わっています。その他、日本三大渓谷美に数えられる寒霞溪、18世紀頃に始まり現在も伝承されている農村歌舞伎舞台など、数多くの観光スポットを有しています。



小豆島オリーブ公園



瀬戸内国際芸術祭 2010

本年3月20日から開幕されます「瀬戸内国際芸術祭 2013」では、醤油・佃煮の地場産業が盛んな醬の郷地区で地域資産を生かしたアートプロジェクトを展開し、農村歌舞伎舞台や棚田が広がる中山地区・日本の原風景の残る三都半島で自然と歴史文化を生かした作品が展示されます。また、大阪城築城時からの歴史を有する石材のまちの福田地区ではアジアの芸術家を中心とした作品が展示されるなど、小豆島の魅力を県内外に発信します。

気候は温暖少雨の瀬戸内海式気候であり、年間降水量は1200mm程度で、従来からたびたび水不足に悩まされている一方で、多くの河川は、山間部が急勾配で平野部に出て急に勾配が緩くなるという地形的特長を有しているため、昭和49年災、51年災に代表

される台風や集中豪雨による大災害にも見舞われています。

この内海ダム再開発事業は、平成15年、平成21年の2度、事業促進町民総決起大会が行われるなど町民一体となって推進してまいりました。ダム本体コンクリートが昨年9月に打設完了した新内海ダムの全景を眺めてみますと別当川沿いで生活する住民の方々にとって非常に心強く、安全で安心して暮らしていけることと喜んでいます。



昭和51年台風17号被災状況



給水船による支援給水（平成7年）